

V これから

■1 新設パーキングエリアの整備

パーキングエリア（以下「PA」という。）は、アクセス・コントロールされたトリップ長の長い有料道路での休憩施設として不可欠な施設であるとともに、道路情報の提供設備、レストランや売店は、ドライバーに安全で快適な利用環境を提供しています。

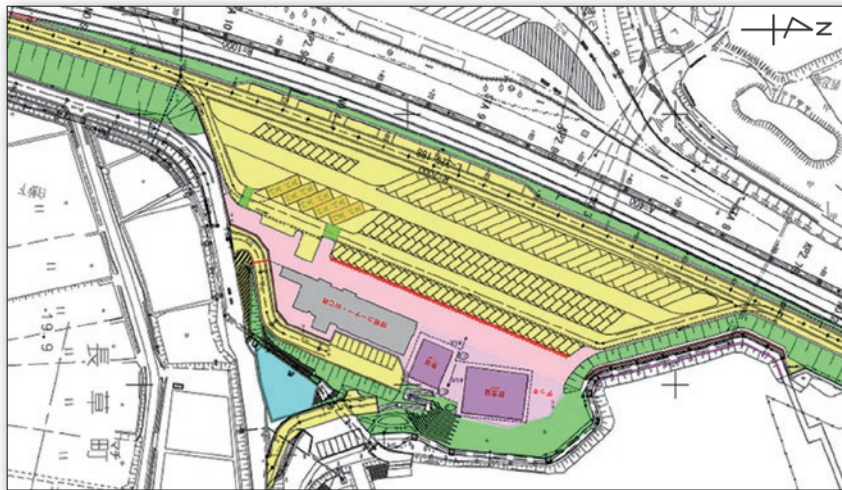
また、地域の特産品や著名なシェフによるメニューの販売、地域の観光施設と連携したイベントの開催などによって、PA自体を目的地化することができれば、利用者を増加させ、地域の活性化にも繋がる可能性を持っています。

知多半島道路では、接続する名古屋高速道路や名古屋第二環状自動車道にPAが設置されていないことから、知多4路線の利便性と魅力を一層向上させるため、下り線に大府PA、上り線に阿久比PAを新たに整備します。

大府PA（下り線）（仮称）

2019年11月から工事着手し、2022年5月28日オープン予定です。

【工事計画図】



【全景写真】



【施工状況】

●造成・基礎工事



●調整池築造工事



●造成・ランプ部盛土工事



●本線アプローチ部の橋梁上部架設工事



●PAトイレ建築工事



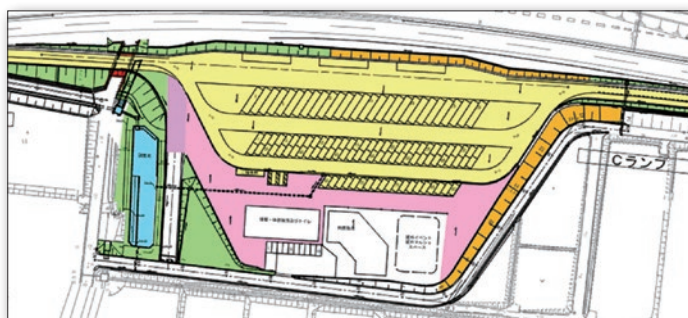
●函渠延伸工事



阿久比PA（上り線）（仮称）

2017年から調査・設計に着手し、関係機関で調整を進め、用地補償は2020年に着手し、現在までに約6割の取得を終え、2021年から用地買収を終えた箇所から工事に着手するとともに建物や設備の設計を進めています。

【工事計画図及び全景写真】



■2 武豊北インターチェンジ（仮称）の整備

南知多道路の北部区間に位置する半田市・武豊町・常滑市域には、半田ICと武豊ICを開設していますが、2つのIC間の距離は5.8kmと長く、特に朝の通勤時間帯を中心に名古屋方面に向かう交通が半田ICに集中し、ICの周辺では慢性的な渋滞が発生しており、以前から交通の分散を図る抜本的な対策が求められていることから、2つのIC間に新たに武豊北IC（仮称）を増設することにより、南知多道路を利用する交通を分散させることで、南知多道路の定時性を向上させるとともに、沿線一般道の円滑化を図ります。

2018年6月から用地買収に着手、2019年10月から工事に着手し、2021年5月には上部工の架設工事を行い、現在、床版等橋面工事を進めています。

今後は、函渠の延伸・擁壁等の構造物工事、本線切り回しを伴う舗装工事、料金所等の建築工事、道路情報板やITVカメラなどの設備工事を施工し、2023年の供用を目標に施工を進めています。

【工事計画図】



【施工状況】



【工事中全景写真】



■3 西知多有料道路事業

目的

知多都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（知多都市計画区域マスタープラン）において、「中部国際空港と伊勢湾岸自動車道を結び、名古屋駅とのアクセス強化及びリダンダンシーの向上を図る地域高規格道路」として位置付けられています。

本路線の整備により、知多半島道路、南知多道路、知多横断道路及び中部国際空港連絡道路と一体となって知多半島地域の自動車専用道路網を形成することとなり、名古屋高速道路を經由して、整備中のリニア中央新幹線（名古屋駅）、名古屋都心地域や近隣都市から中部国際空港への交通アクセスが向上するとともに、定時制・信頼性についても向上することとなります。

また、信号交差点が連担している現道の国道155号の慢性的な渋滞の緩和が図られ、移動時間の短縮など物流の効率化により生産性向上が期待されます。



整備概要

根拠法令：道路整備特別措置法

路線名：一般国道247号

区間：知多市南浜町から常滑市字耳切まで

延長：9.0km

事業費：222億円（有料道路事業分）

道路の区分：第1種第2級

車道幅員：14.0m

設計速度：80km/h

料金：普通車 410円（税込み）

※金沢IC～青海IC～多屋IC間のみの通行については内々無料を適用

※ETC車は距離別料金を徴収（対距離制）

※ETC車以外の自動車（現金車）は通行する区間にかかわらず、料金徴収所で全区間（全線）の料金を徴収



常滑JCT(仮称)イメージ

